病院図書館　2016;36(2):94-99

特集　気軽に始める図書館システム

FileMaker pro によるてづくり図書館システム

井上　智奈美

Ⅰ．はじめに

FileMaker Pro（以下 FM）は、ファイルメーカー社が開発しているデータベースソフトです。Microsoft 社の Access と比較すると、初心者にも操作しやすい設定になっています。csv 形式のファイルとデータのやりとりが可能で、印刷書式が作りやすいという特徴があります。

最新版は 16 です。当院は更新しないまま過ごしていましたので、いまだ 5 を使用しています。これからの説明は 5 のバージョンのものになります。ご了承ください。

Ⅱ．レコードとフィールド

レコードとは、Excel で言うと行のことです（図 1）。

図 1　レコード

フィールドとは、Excel で言うとセルのことで、見出しはフィールド名になります（図 2）。

Excel 上で縦横（列行）のデータがきれいにそろっていれば、FM への変換取り込みが可能です。

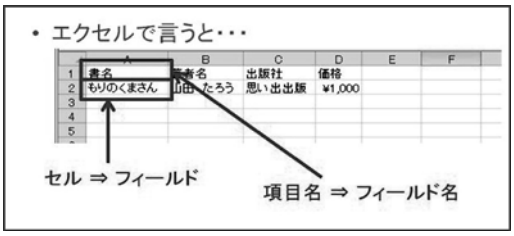


図 2　フィールド

FM では、このフィールドを画面上に自由に配置して印刷書式を作ったり、1 つのページにしたりリストにしたりできます（図 3）。データの検索機能もあります。

図 3　画面表示例

Ⅲ．当院の事例

当院では FM を利用して、単行本、雑誌、相互貸借、住所録管理などを行っています。ここでは主に単行本システムについてご紹介します。

当院の単行本システムでは、以下の作業について FM を利用して行っています。

・蔵書の受入
・装備関係の印刷

いのうえ　ちなみ：三菱京都病院　図書室
library@mitsubishi-hp.jp

・貸出管理および督促
・支払管理
・各種案内文の作成
・蔵書検索
・個人購入管理

単行本の入力画面は図４のとおりです。矢印のついているところがフィールドです。１レコードだけでもこれだけあります。Excel では１行にこれだけのデータを入力しようと思うと横に長くなってしまい使いづらいです。

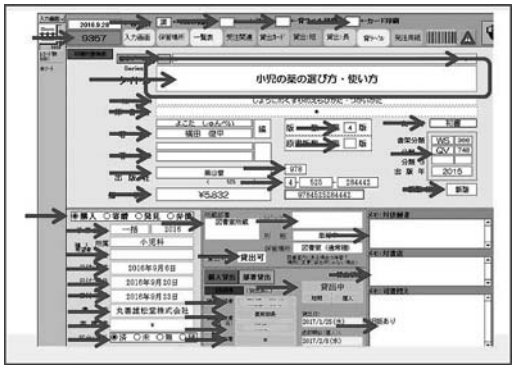


図４　単行本：入力画面

リスト表示にすると図５のようになります。

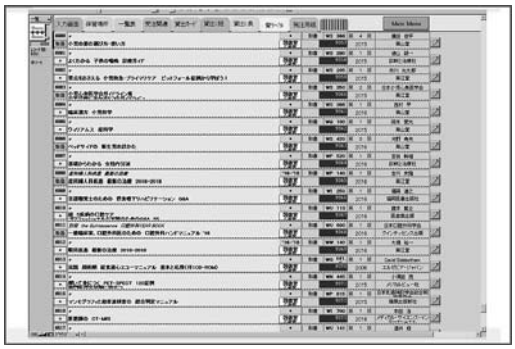


図５　単行本：一覧画面

FM には次の４つのモードがあります。同じ画面でもモードによって見え方が違います。できる作業も違います（図６〜７）。

・ブラウズ　　⇒　入力作業などをする
・検索　　⇒　検索する条件を入力する
・レイアウト　⇒　設定や配置ができる

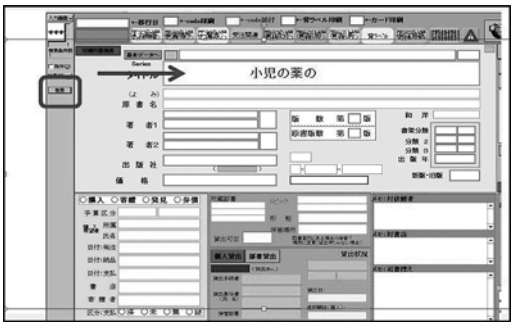


図６　単行本：入力画面の検索モード

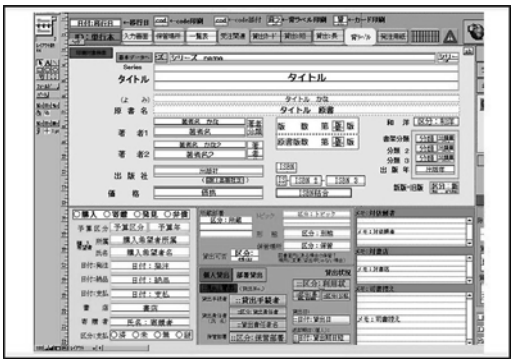


図７　単行本：入力画面のレイアウトモード

・プレビュー　⇒　印刷の仕上がりをみる

印刷書式の例を図８にあげます。新着図書案内と単行本廃棄のアンケート用紙です。図８はプレビューモードで表示しています。また、当院では図書館資料にバーコードを貼付しています。バーコードシールは FM で印刷しています。請求ラベルも同様です（図９）。

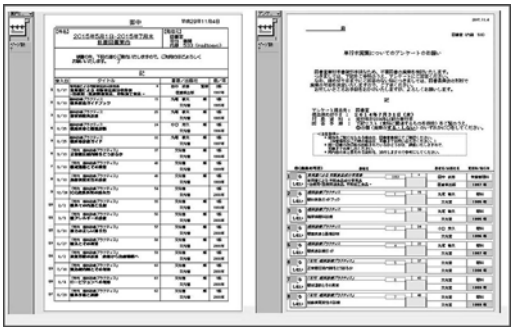


図８　印刷書式の例（プレビューモード）

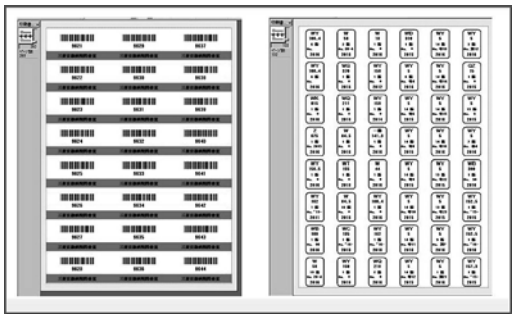


図 9　装備品の印刷画面（プレビューモード）

このように、同じファイルの中でもさまざまなレイアウトを作ることで、いろいろな見え方をする画面や印刷書式を作ることができます。

Ⅳ．リレーションとルックアップ

FM には、Excel で言う VLOOKUP のような機能があります。リレーションとルックアップです。両者の関係性を図で表すと図 10 のようなイメージです。ファイルとファイルをつなぐ糸がリレーションで、その糸を通して知りたい情報を聞いているのがルックアップです。

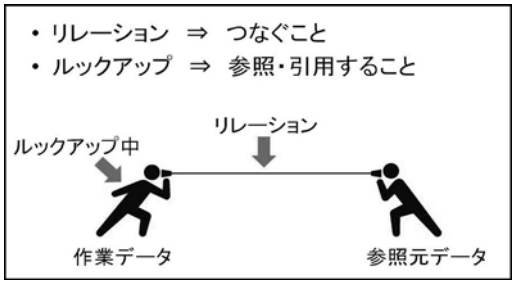


図 10　リレーションとルックアップ

この機能を使うと、同じデータを何回も入力する手間が省けます。また統一した内容を入力することができます。

一例をあげると、当院の単行本システムでは出版社コードを利用して出版社名を読み込んでいます（図 11）。これにより、出版社名などにある「株式会社」を手入力だとつけたりつけなかったりといったデータ入力の不統一を避けることができます。

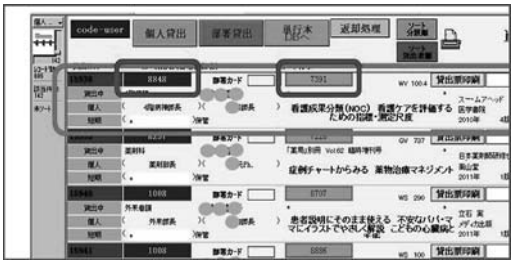


図 11　出版社名のルックアップ

また、貸出管理でもこの機能を利用しています（図 12）。貸出管理の入力画面で入力するのは、主にユーザー ID（利用者のデータ）と単行本 ID（単行本のデータ）だけです。この 2 つの数字を入力すると、それらの数字から利用者名や所属部署、本のタイトルなどさまざまな情報がルックアップされ表示されます。作業の効率化がはかれるしくみです。

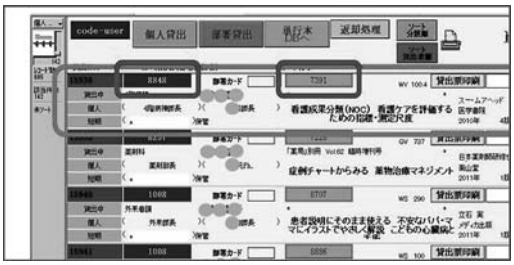


図 12　貸出管理：入力画面

これらのしくみを利用するため、単行本システムでは以下の複数のファイルを作成して運用しています。

・単行本（システムの中心となるファイル）
・出版社リスト
・利用者コード
・貸出管理
・返却データ
・蔵書点検
・個人購入管理

Ⅴ．ボタンとスクリプト

FM にはさらに便利な機能があります。ボタンとスクリプトです。

ボタンは、押すと何か動作が起こります。ただし、1つの動作だけです。そのため画面にボタンばかりあると見づらく、押す回数が多いと作業効率が悪いです。

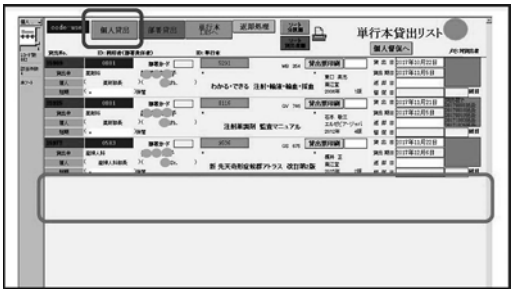
スクリプトは複数の動作を合体させる機能です。Excelで言うマクロのようなものでしょうか。ただし、きっかけがないと発動しません。そのため、複数動作を合体させたスクリプトを実行させるというボタンを作ると便利です。

この機能をイメージ図で表すと図13のようになります。

図13　ボタンとスクリプト

図13の最後のボタンはわかりやすいように大きく作っていますので、もう少し小さくすると画面上ではすっきりします。

このしくみをつかった例です（図14）。個人貸出というボタンがあります。これを押すと、新規レコードを1つ作り「貸出中」「個人」「短期」「貸出日（今日の日付）」の文字を該当フィールドに入力し、カーソルを「ID（利用者コード）」のフィールドに置く、という動作を実行します。



「個人貸出」ボタンを押すと一番下のところに新規レコードが作られ、指示しておいたデータが自動で入力された状況になる。

図14　貸出管理：入力画面

Ⅵ. 単行本システムのその他の画面例

単行本システムで使用しているファイル画面の例を図15～19にあげます。

利用者コードは、毎月人事部門からcsvデータをもらって更新しています。その取り込み手順を間違えないように画面上にメモをして、さらにボタンとスクリプトを作って作業を自動化しています（図15）。

図15　利用者コード

貸出管理では、延滞者への督促状を毎月印刷しています（図16）。

蔵書点検は年に1回行っています。作業手順は、まずバーコードリーダーでExcelファイル上に図書館資料のIDを読み込みます。するとExcelのA列に図書館資料のID番号だけが並びます。すべての蔵書の読み込みが終わるとcsvファイルからFMに変換し、リレーションとルックアップで蔵書状況を蔵書管理ファイルに読み込みます。すると紛失中のものがわかり、

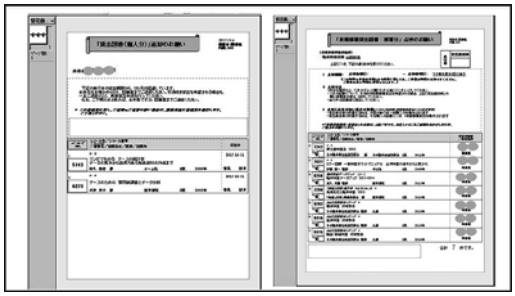


図 16　貸出管理：督促状印刷画面

職員に対し捜索依頼を出します（図 18）。

また当院では、病院購入ではなく個人負担で

図 17　蔵書点検

図 18　蔵書点検：捜索依頼の印刷画面

本を買いたい場合、図書室から書店に発注し、本が届いたら依頼者から代金を預かり、書店に支払うという窓口をしています。その管理用のファイルが個人購入管理です（図 19）。

図 19　個人購入管理

このファイルから請求書の印刷や支払い管理などができます（図 20）。

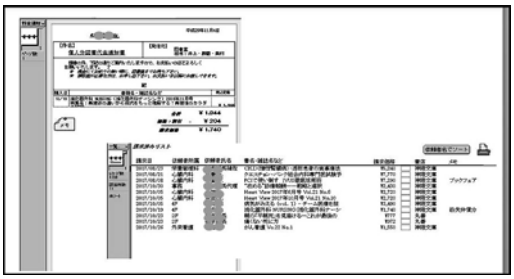


図 20　個人購入管理：請求書と支払い管理の画面

Ⅶ. 単行本以外のシステム

雑誌システムでは、以下の作業を FM で行っています。

・蔵書の受入
・装備関係の印刷
・貸出管理および督促
・各種案内文の作成
・特集記事名検索
・もくじ配布用の表紙の作成

相互貸借システムでは、依頼・受領後の支払い、受付作業を FM で行っています。

そのほか、図書館で管理しているデータベース（医中誌 Web など）のログイン ID・PASS、

会員番号などを住所録で管理しています。

また、利用者へのお手紙やお知らせもFMで作成しています。そうすると昨年の今頃どんな内容のお知らせを出していたかが検索でき、レコードを複製して今年用のお知らせに利用することもでき、便利です。

Ⅷ. おわりに

FMを利用した図書館システムの例を紹介しました。FMの良い点は、既製品の図書館システムに比べると安価で入手できることです。また自館好みに作成・変更できます。困る点は、初心者向けとはいえ、ある程度はFMの勉強が必要となることです。更新やメンテナンスも必要で、当院のようにそれを怠るとのちのち面倒なことになります。また、担当者が変わると使用できなくなる可能性もあります。

それぞれの図書館にあったシステムを選択できるといいですね。この記事がその一助となると幸いです。

この記事内容は、近畿病院図書室協議会第141回研修会で発表したものの一部をまとめたものです。

参考文献

1）Topencon Heroes. ヒューマンピクトグラム 2.0. ［引用 2018-07-11］.
http : //pictogram2.com/